

# 「エコプロ」で水循環ブース

## GKPなど 次世代に上下水道をPR



管清工業ブース



東亜グラウト工業ブース

視察に訪れた(左から)若公調整官と岡久理事長、協賛企業幹部ら

道事業調整官のほか、人づくり・木の杜環境リサーチセンター、東ティモールで「国づくり・人づくり・水づくり」プロジェクトを行つCWPグループとの共同事業の紹介を行つた。下水道管路を模した「下水道探検クイズ」には多くの子どもたちが詰めかけた。

東亜グラウト工業は、「あたりまえのウラ側で大発見! まちをささえるすごいひみつをみつけよう」と題し、小学校の授業ながらに「あたりまえ」となつてゐるインフラを陰で支える自社の技術を紹介した。

が印象に残った」と感心した。

協賛企業の幹部らが視察に訪れた。岡久理事長は「水をめぐるというテーマもわかりやすく非常によくできている。また、他のB to Bの要素が強いため、水道の管路や微生物などをキャラクター化した「下水道フグン」「ビセイブーツ」といった「ガーディアンズ」が、老朽化や汚水、浸水といった様々な「モノスター」から水循環を守つていく。

初日には岡久宏史・下水協理事長やGKP企画運営委員長を務める若公崇敏・国土交通省上下水道協議会の幹部らが、来場が叶い、お子さんや学生の多さに驚いた。次世代に上下水道をPRができることにGKPとしても展示をし続ける価値があると感じた。企業や団体からお越しいただいている説明員の方々も一生懸命説明をしているの

国内最大級の環境展示会「エコプロ」が10～12日に東京ビッグサイトで開催され、GKP(下水道広報プラットフォーム)や日本下水道協会をはじめとした「21世紀の下水道を考える会」協議会、協賛企業からなる「水をめぐる大冒険実行委員会」は、「まもれ! みんなの上下水道」をテーマに、水循環を土台に上下水道の大切さを訴えるブースを出展した。

水をめぐる大冒険では、自然環境の減少や管路の老朽化、人手不足といった諸問題を「水循環のピンチ」と表現。森林や街中、浄水場と処理場

をめぐる大冒険で、上下水道の管路や微生物などをキャラクター化した「下水道フグン」「ビセイブーツ」といった「ガーディアンズ」が、老朽化や汚水、浸水といった様々な「モノスター」から水循環を守つていく。

初日には岡久宏史・下水協理事長やGKP企画運営委員長を務める若公崇敏・国土交通省上下水道協議会の幹部らが、来場が叶い、お子さんや学生の多さに驚いた。次世代に上下水道をPR

ができることにGKPとしても展示をし続ける価値があると感じた。企業や団体からお越しいただいている説明員の方々も一生懸命説明をしているの